

■ マツダE&TのDX取組み

■ ～ 26中期経営計画の実現に向けて～

■ 2026/4/1

■ 株式会社マツダE&T

CONTENTS

1. DXビジョン
2. DX戦略
3. DXを進める全社組織体制
4. DX人材育成
5. 風土改革
6. デジタル化に向けたIT環境基盤整備
7. セキュリティ対応
8. DX推進に係る成果・進捗指標

DXビジョン

社員・顧客・地域社会、すべてのステークホルダーに感動を届け、しあわせを実現

株式会社マツダE&Tは、「人にやさしい新しい価値の創造」を原点に、DXにより、お客様へ新たな価値を提供し、社会・産業の持続可能性とレジリエンスの向上に貢献することで、社員・顧客・地域社会、すべてのステークホルダーに「感動」を届け、「しあわせ」を実現します。

外部環境の変化が激しく、競争力が“変化への適応速度”で決まる時代において、当社はDXを成長の中核戦略として位置づけます。

エンジニアリング事業とカスタマイズ事業で培ってきた現場力に、デジタル技術を融合させることで、価値提供のスピードと質を高めます。

これにより、地域・産業の強靱化に貢献し、“あなたにとって、なくてはならないパートナー”として、感動としあわせをお届けします。

今後とも皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社マツダE&T
代表取締役社長 京免 章



DX戦略

『あなたにとって、なくてはならないパートナー』

中期ビジョン

新しい価値の創造

競争力向上

産業・地域への貢献

『現場力』×『デジタル』

DX FOUNDATION



AIと共に働く環境構築

“現場発”の横断DX

データ連携と標準化

セキュアな基盤・人材育成

DX STRATEGY

DXを進める全社組織体制

DX推進体制

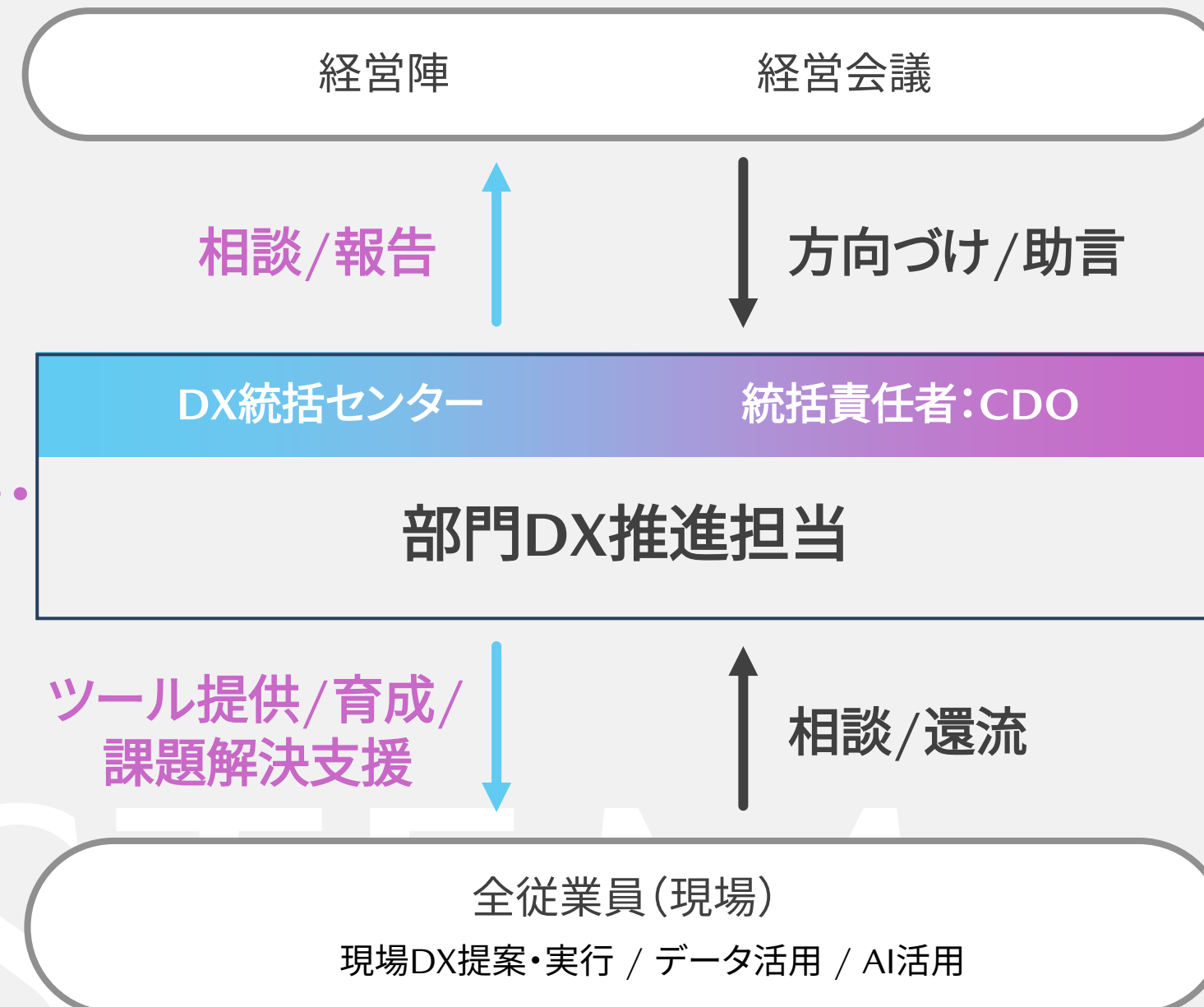
DXを進める全社組織体制

DXビジョンの実現に向け、経営陣監督のもと、経営会議において意思決定を行い、DX統括センターがDXプロジェクトを推進する。

DX統括センターの役割

社内の中核組織”として以下をリードすること。

- 【戦略】 DX戦略策定 / ガバナンス
- 【基盤】 セキュアなIT / データ / AI基盤構築
- 【人財】 デジタル人財育成 / 文化醸成
- 【現場】 現場DX支援 / PoC推進
- 【データ】 データ標準化 / 連携 / 品質管理
- 【AI】 AI利活用環境整備 / ガイドライン
- 【PMO】 プロジェクトポートフォリオ管理



DX FOUNDATION

～ビルディングブロック構成～

AIと共に働く環境構築

“現場発”の横断DX ～強い現場力を、全社の力へ～

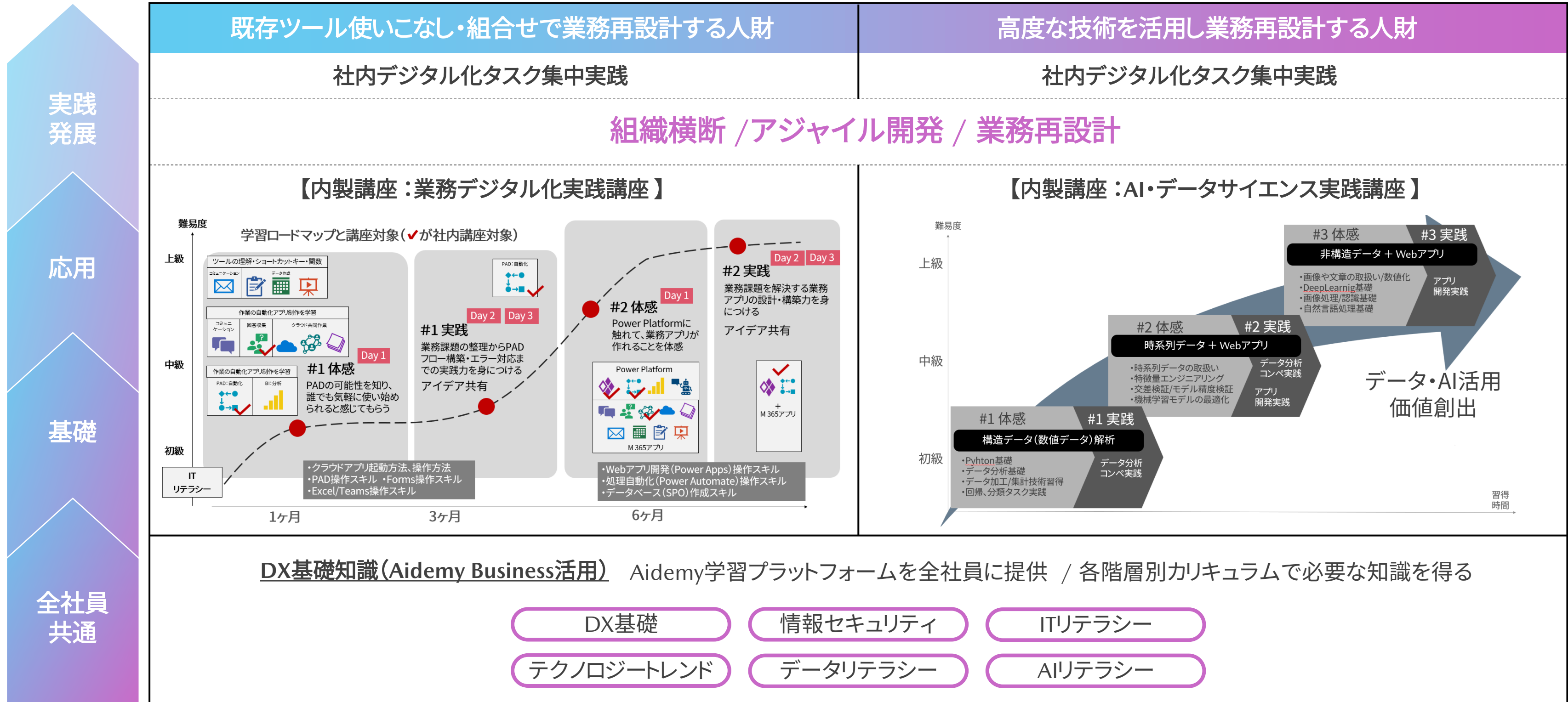
データ連携と標準化 ～部門最適から全社最適へ～

セキュアな基盤・人財育成 ～DXの「前提条件」を全社に行き渡らせる～

目的・位置づけ		DXを安全に進める前提条件の確立	データを全社資産として活かす	現場力を組織横断の価値へ	人×AIで価値創出を加速
人財育成	P7,8	全社員DXリテラシー (IT・データ・AI・セキュリティ基礎)	データ活用人財 (分析・可視化・判断)	DX実践リーダー (業務再設計・横断推進)	AI活用人財 (業務適用・高度活用)
風土・文化	P9	DXは「業務の前提」 まず使う・学ぶ	データで語る・決める	現場起点・挑戦歓迎	AIと共に働くのが当たり前
組織・推進体制	P5	DX統括センター設立 全社支援・ガバナンス	データ管理・活用ルール整備	部門横断PoC・支援体制	AI活用ガイド・相談窓口
IT/デジタル基盤	P10	クラウド・NW・認証基盤 共通ツール整備	データレイク／データウェアハウス 分析基盤	共通アプリ・内製基盤	AI実行・連携基盤
データ	P10	データ取得・蓄積開始	データ標準化・品質管理 カタログ整備	横断データ活用・共有	AI学習・推論用データ活用
セキュリティ・ガバナンス	P11	業界水準・法令に準拠した安全管理 利用ルール整備・教育・監査	データ利用ルール明確化	横断活用時の統制	AI倫理・リスク管理
代表的な取組み	P7,8,9	学習プラットフォーム／ 内製ハンズオン講座／セキュリティ教育	部門ダッシュボード データ基盤構築	全社課題リスト実践 実践報告会	AI業務組込み 自動化・支援
成果の考え方	P12	使える人が増える	見える・比べられる	繋がって解決できる	早く・賢く判断できる

DX人材育成

2030年度までに全社員がデジタル基礎知識を獲得し、デジタルを活用した業務再設計を実践できる状態にする。
 さらに、高度な技術を活用して業務変革を実行する人財を各部門20%以上の育成を目指し、競争優位性を確保する。



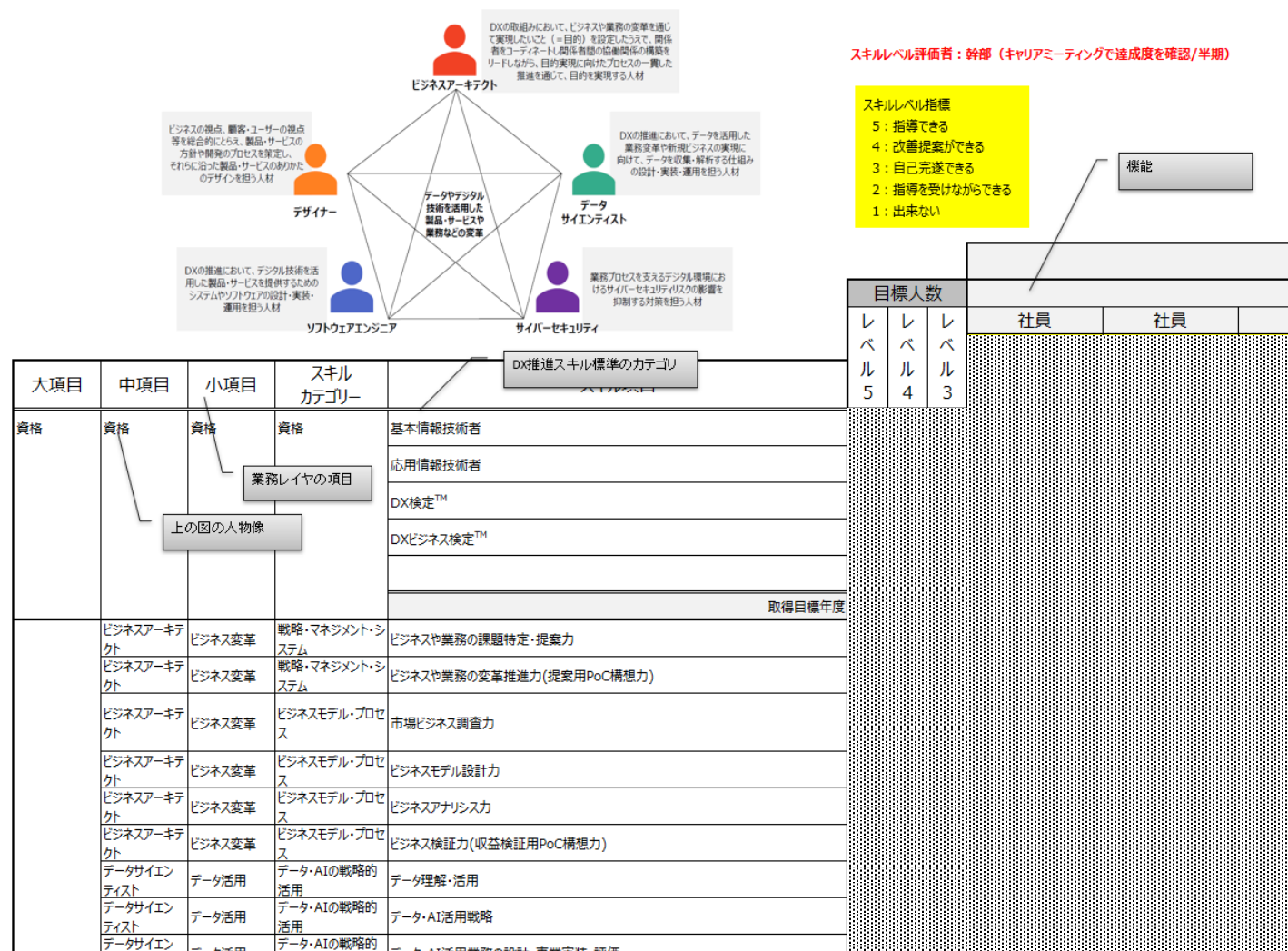
DX人材育成

全社員がデータ・デジタル技術を活用できる育成機会と計画的なDX人材育成をする枠組みとして、スキルマップの作成・運用と社外認定資格を活用する。

スキルマップ

独立行政法人情報処理推進機構が公開している「デジタルスキル標準ver.1.0」をベースとした社内スキルマップを作成・運用しデジタル人材育成状況の可視化を行い、進捗フォロー・育成の機会提供をする。

スキルマップ育成計画 兼 実績表



社外認定(資格)

全社的なデジタルリテラシー向上と専門スキル獲得を加速するため、以下の資格について学習・受験支援を行い、資格取得を推奨・促進する。

資格試験	対象
DX検定™	デジタル技術系エンジニア 推進リーダー
DXビジネス検定™	マネジメント層
基本情報技術者試験	デジタル技術専任エンジニア
応用情報技術者試験	デジタル技術専任エンジニア
情報処理技術者 高度試験	デジタル技術専任エンジニア

風土改革

DX進捗見える化と情報共有・発信の仕組みを構築運用し、DX風土を醸成する。

DXのネタ帳(課題リスト)

全社DX化アイテム『収集』『一元管理』『進捗見える化』ができるアプリ構築・運用

ネタ管理内製アプリ



ネタリスト一元管理

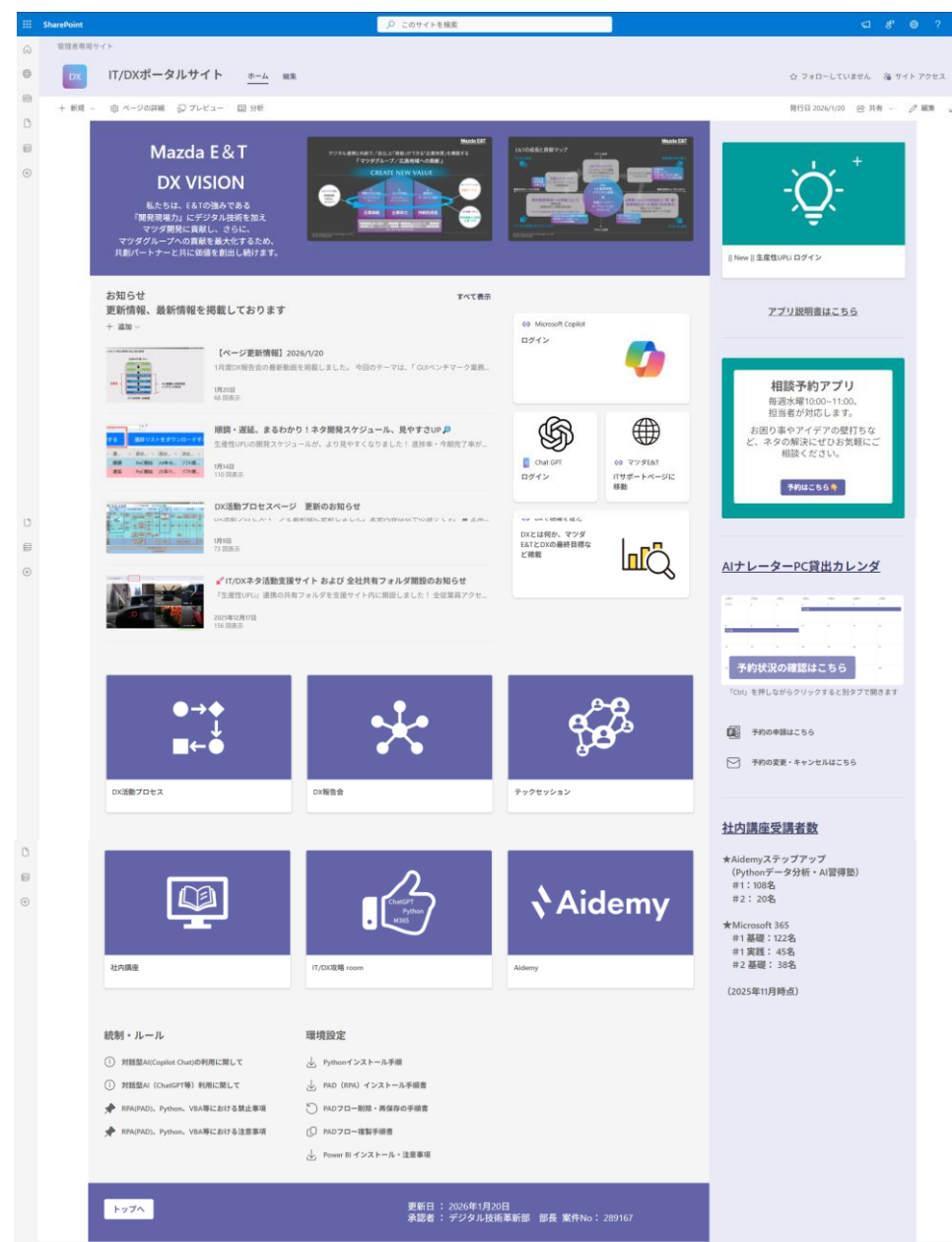
No.	項目名	担当者	進捗	ステータス	更新日	更新者
0001	生産性UPLi	田中	進捗中	完了	2024/1/20	田中
0002	MAZDA E&T	佐藤	進捗中	完了	2024/1/20	佐藤
0003	Grステータス	鈴木	進捗中	完了	2024/1/20	鈴木
0004	DXコンサル	高橋	進捗中	完了	2024/1/20	高橋
0005	開発スケジュール	山本	進捗中	完了	2024/1/20	山本
0006	Dashボード	渡辺	進捗中	完了	2024/1/20	渡辺

リアルタイム進捗管理



DXの情報共有

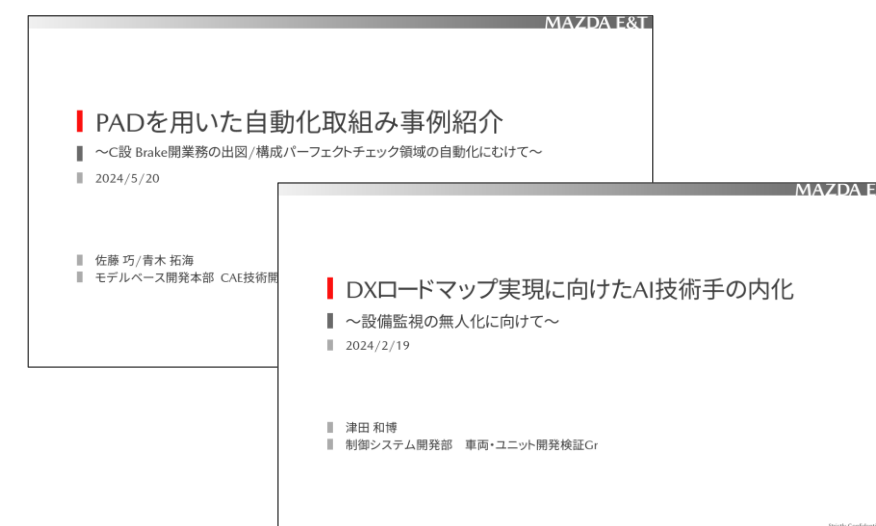
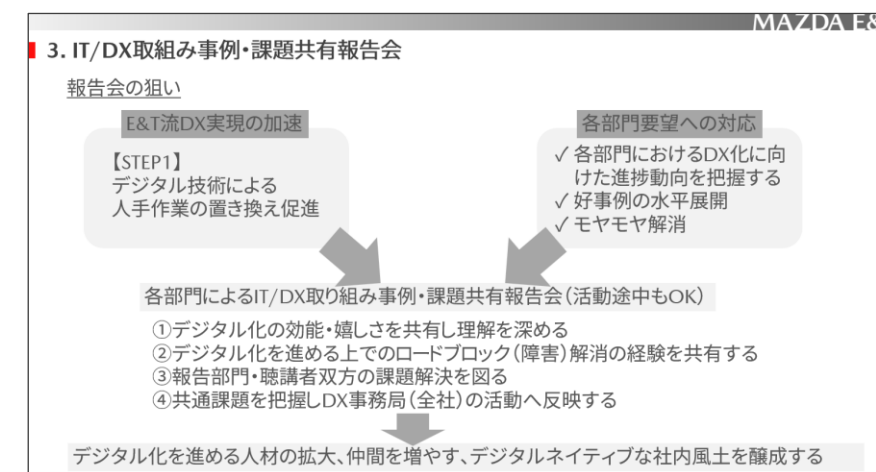
DXポータルサイトで情報発信・共有



DX実践報告会

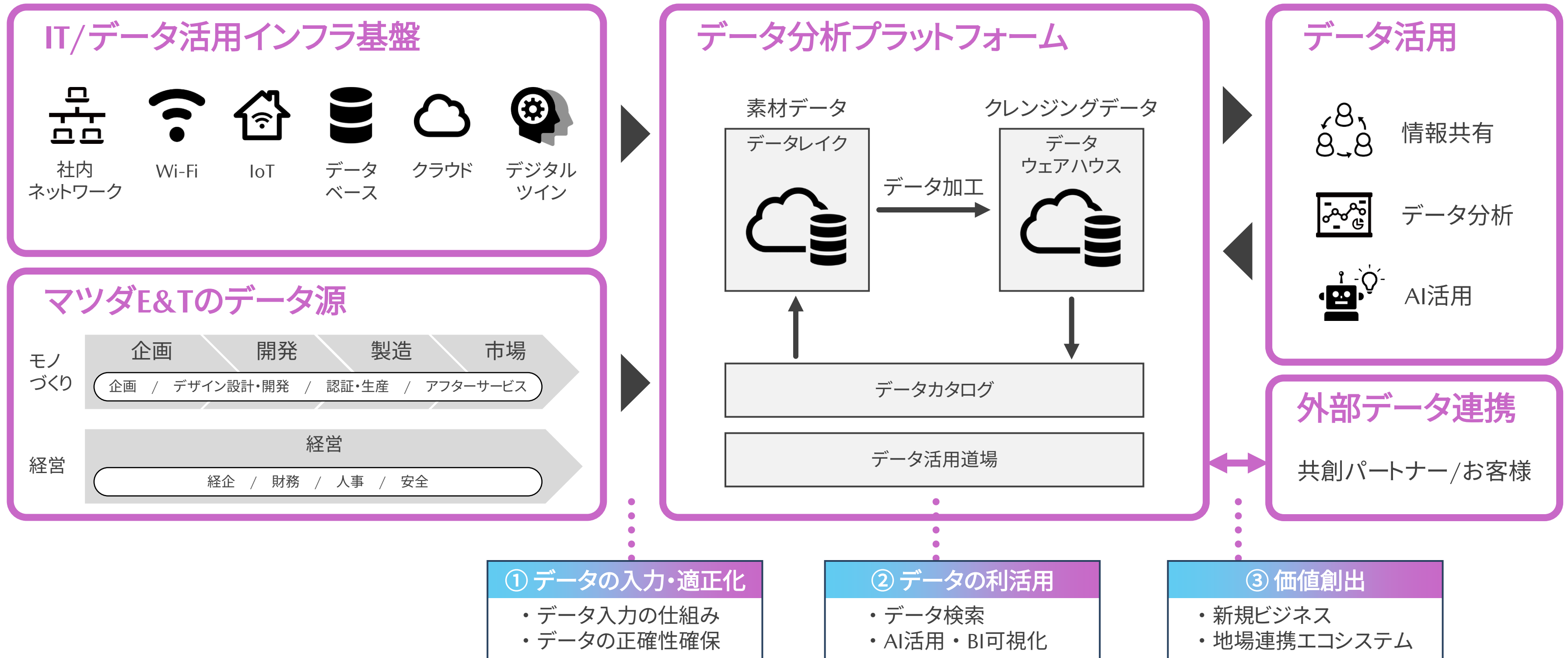
DX実践事例を全社に情報共有

- ・月1回 社長と担当役員含めて報告会を実施
- ・全社配信で、平均200~300名が聴講



デジタル化に向けたIT環境基盤整備

必要なデータを必要な時にすぐに使える環境整備として、データ分析プラットフォームの構築を進め、データの一元管理、リアルタイムな分析と可視化、データを用いた予測と洞察、データ駆動型の判断などによりビジネス上の意思決定をより迅速かつ正確に行い、社内外の情報共有促進により生産性・収益向上・新しい価値創出に繋がります。



DX推進に係る成果・進捗指標

- ・DXビジョンを実現するため、DX推進に係る成果・推進指標(KPI)を設定し、進捗状況を全社員が確認・共有し、達成に向けて行動します。
- ・DX推進指標は経営会議(3回/年)で確認し、達成に向けたアクションを取り続ける事で、新たな価値創出できる企業へと変革します。

デジタル施策	KPI	目標値	KPI設定の考え方
デジタル人材育成 / 文化醸成	①デジタル人材※の育成人数 ※業務でデジタル活用実践できている人、 もしくは業務再設計ができた人 ②DX実践事例の共有	①2030年度 ・デジタルツールを活用した業務再設計 ➡ 全社員 ・技術を活用して変革する人材 ➡ 各部門で20%以上 ②全社DX事例報告会 月一開催	多くの社員がデジタルスキルを獲得、業務実践し組織間連携することで、競争優位性を確保する
業務へのデータ / AI活用の促進	①部門経営ダッシュボード構築・運用 ②業務プロセスにAI活用の組み込み	①2027年度 全部門運用 ②2030年度 全部門で活用	社内にデータドリブンを浸透させ意思決定をスピーディーにする “AI活用・共に働く”を当たり前の文化にする
“現場発”の横断 / DX活用の促進	①現場発の困りごと提案・発掘件数 ②部門横断で全社共通課題解決数 ③他社との業務連携、共同プロジェクト件数	①2030年度 500件以上 ②2030年度 20件以上 ③2030年度 5社以上	これまでにない多様なソリューションを生み出し、お客様により良い価値を提供する
IT/データ インフラ整備	社内IT/データインフラ整備 データ・AI活用基盤構築 セキュリティ・ガバナンス	①データ蓄積基盤/セキュリティ /利用ガイドライン 2026年度完了 ②データ分析基盤 2027年度完了 ③データと連携したAI活用基盤 2028年度完了	全社員が働きやすく、新しいアイデアを生み出しやすい環境を早期に完成させる

MAZDA E&T

WAY TO REALIZE YOUR DREAMS